

ピラサ

アイヌの人たちの歴史・文化

食

アイヌの人たちは、自然が人間に与えるものはすべてカムイ(神)の恵みと考え、それらの恵みに感謝の気持ちを常にもっています。

19世紀あたりは一年の多くを食糧採取に費やし、特に山菜は一度に取り尽くしてしまうようなことはせず、必ず「根」を残し、次の年の分を確保しました。四季折々ととれる山菜や動物、魚介類は家族の食卓にのぼるとともに、長い冬の間の食料として、また飢餓に備えるために蓄えていました。

江戸時代の終わりころになると、アイヌの人たちも野菜をつくるようになり。多くの料理に用いられました。明治以降、本州からの移住者の増加、同化政策のもとに、アイヌの人たちを取り巻く生活環境は大きく変化し、今まで当たり前だった食材が手に入りにくくなり、ここ100年あまりの間に食生活は大きく変化しました。現代は、皆さんとほぼ同じ生活様式となりましたが、食に関する考えなどは、引き継がれています。現在に伝わる料理もこのころにつくられたものを基本としています。

今に伝わる伝統的な日常食・儀礼や祝祭の料理

明治期ごろまでの日常の主食は、オハウ(おかずの入った汁)、ルル(汁物)があり、チェブオハウ(魚汁)、カムオハウ(動物の肉を入れた汁)、キナオハウ(野菜・山菜類がふんだんに使われた汁)、イチャニウのルル(さくらますの汁)、カボチャルル(かぼちゃの汁)などの汁物(一種の鍋物)です。

副食としては、サヨ(アワやヒエなどの穀物に水をたっぷり入れて煮た粥)、ラタシケブ(煮物のようなもの)などがあり、肉や魚は串に刺して焼いて食べ、季節によっては、ルイベ(凍った鮭の刺身)という生で凍らせたものを食べます。

クマやシマフクロウの霊送りや先祖供養、婚礼や葬礼などの儀礼や祝祭の特別な料理には、普段の食事のほか、チサツスイエブ(雑穀類を炊いたもの)、トノト(酒)、シト(団子)などが付け加えられます。一年に数回しか味わうことのできない儀礼や祝祭の料理は、人間だけでなく、祖先や神々とともに食べ、ともに楽しみます。この伝統は、今日に伝わっています。

明治期ごろまでは、食事は囲炉裏の周りで行われ、家族や来客の座る場所が決まっていました。来客には食器をのせる台として膳を用いて、家族は、炉ぶちを膳の代わりにしました。

調味料と薬味

明治期ごろまでは、一般的に薄味で、素材のうまみを十分生かしていました。塩と油脂が主な調味料で、油脂を入れることにより、まろやかさが出ました。このほか、甘みとしてイタヤやコクワの樹液、薬味としてシコロ(キハダ)の実、鮭や鱒の卵、ギョウジャニンニクを刻んだものなどがありました。今日では、味噌、醤油、砂糖などの調味料を使用しています。



炉ぶちでの食事の様子



チエ オハウ



ラタシケブ



シト

【出典】 『アイヌの人たちとともに』 その歴史と文化 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構
『ボン カンピソシ』アイヌ文化紹介3・食べる 北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『アイヌ文化の基礎知識』 (財)白老民族文化伝承保存財団発行

アイヌ語 豆知識

今回は、食事に関連するアイヌ語の一例を紹介します。

イタンキ(itanki) = 椀 イペパスイ(ipe-pasuy) = 箸 イペ(ipe) = 食べる ペラ(pera) = さし
オッチケ(otcike) = 膳 ス(su) = 鍋 チェブ(c=e-p) = 魚 キナ(kina) = 山菜 カム(kam) = 肉
スウエ(suwe) = 煮る ウフイカ(uhuy-ka) = 焼く イマニツ(i-ma-nit) = 焼き串
サツケ(satke) = 干す クンネイワイベ(kunneywa-ipe) = 朝飯 チュワンイベ(cuwan-ipe) = 昼飯
オヌマンイベ(onuman-ipe) = 夕食

【出典】『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂

宗谷管内では、『礼文町郷土資料館』や『オホーツクミュージアムえさし』など、アイヌの人々の歴史や文化、言葉、生活等を取り扱っている社会教育施設を活用した学習が展開されています。

枝幸町の『オホーツクミュージアムえさし』は、アイヌの人々の文化とのかかわりが深い「古代オホーツク文化」をテーマとした日本で唯一の博物館施設であることから、多くの学校では、地域の貴重な教育資源として積極的な活用を図っており、子どもたちが体験的にアイヌの人々の文化等についての学習を深めています。

小学校の取組事例

「施設見学」

A小学校では、館内見学や学芸員の説明を通して、アイヌの人々の文化について学習をしています。

<子どもの声>

- ・枝幸町の歴史の中にアイヌの人々の文化や生活等が深くかかわっていることが理解できました。



オホーツク文化期の竪穴式住居

「アイヌ語地名講座」

B小学校では、学芸員を講師として招き、クイズ形式で枝幸町や宗谷管内の地名の由来について学習をしています。

<子どもの声>

- ・身近な町の名前は、アイヌ語でどのような意味があるかを知るなど、現代に息づくアイヌ語が理解できました。

「遺跡見学」

C小学校では、遺跡（チャシ＝砦跡）を観察し、アイヌの人々の生活を様子を再現するなどの学習をしています。

<子どもの声>

- ・壕に入って深さを体験したり、チャシ先端部から周囲を展望したりして、チャシが見張り場としての機能があったことなどが理解できました。



目梨泊遺跡

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する関連施設の紹介

住所 電話番号 ホームページアドレス 特徴

川村カ子トアイヌ記念館

旭川市北門町11丁目 0166-51-2461

ムックリ製作や演奏体験、刺繍体験の、古式舞踊の鑑賞や体験などの各種体験学習ができるほか、歴史についての講話を聞くことができます。

名寄市北国博物館

名寄市字緑丘222 01654-3-2575

<http://www.city.nayoro.hokkaido.jp> (ここからつどいのガイドへ)

「カムイの森」のコーナーにおいて、冬を生かしたアイヌの人々の生活ぶりを紹介しているほか、野外での有用植物の観察などの野外でのアイヌ文化体験や歴史についての講話を聞くことができます。